講義名	財務分析論				
科目区分	学部専門科目				
担当教員	木村　敏夫				
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 １時限				
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科／2014年度 サービス産業学部 観光学科／2014年度 総合政策学部 総合政策学科／ 2014年度 商学部 商学科／2013年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科／2013年度 サービス産業学部 観光学科／ 2013年度 総合政策学部 総合政策学科／2013年度 商学部 商学科／2012年度 サービス産業学部 サービスマネジ				
履修開始年次	３年生	単位数	2	講義コード	51034

主題と概要

「分析」とは、ある「対象」の事象内容、性質などを明らかにするために、ある視点のもと（ものの見方）、「細かな要因」（構成要因別・説明変数）に分解し、それぞれの要因の特質を評価し、最後に、その分解した対象の要因を「総合」（被説明変数）し、点数などを付すことである。
「財務分析論」は、対象を（営利）「企業」（株式会社）とし、「財務の視点」に立脚する。視点を確立するために、証拠（資料）を必要とする。財務分析は財務の視点に立つ証拠［資料］をもとに、評価を下す方法論・技術論である。この証拠は財務の視点に立脚して蒐集、集約される「財務情報」（財務データ）である。財務情報は、一定の枠組にもとづき定量的（価値・物量）に測定された客観的なデータである。
「企業」の経済活動を「財務（価値）データ」に変換する枠組が「企業会計」である。したがって、財務分析は定量情報、主に価値（価格）変換された財務資料、企業会計の枠組で認識、測定、報告される情報（財務報告書）に依存することになる。企業会計が提供するデータを分析し、判断し、それを評価値に変換し、一定の総合評価を下すことになる。企業会計情報は「企業」「分析」「評価」する資料として完全ではない。財務資料の限界が財務分析の限界とも言えるのが現状である。
財務分析には特に価値評価に転化された「財務情報・財務数値情報」を利用する。「企業」を評価するためには、財務情報以外に、非財務情報を補足・補完しなければならない。社会情報、環境情報などが開示［欧州などでは制度化されている］されている。非財務情報を企業の［業績］評価に利用することは、主観的判断をともなう。しかしながら、非財務情報（定性情報）を利用した定性分析を加えることで、現在の「企業分析」（企業評価）を行うことが可能となる。
講義、財務分析論は、「企業」を財務の視点から評価する方法等を学修することにある。実際の「企業（会社）」

到達目標

受講者が「企業」（会社・株式会社）の現況を、主に、財務情報を利用して「財務」の視点（資本の調達・運用とその評価）から理解、判断する知見［知識体系］を得ることを目標とする。

提出課題

考えていない。

評価の基準

評価は、中間試験（50点）と定期試験（50点）の合計で判定する。

履修にあたっての注意・助言他

財務分析論は科目の性格から経済学、経営学、簿記原理、会社法、会計学原理、管理会計、財務管理等の理解が不可欠である。受講学生は、上記の学科を履修し、理解していることが必要である。講義は、実際の企業（会社・株式会社）を例に取り、財務情報等にもとづき財務の視点から企業を評価する。
講義は知識体系にもとづく。一回一回積み上げて体系を成す。講義はトピックではなく、途中から、講義に参加しても理解は不可能である。
単に「単位取得」を目的として履修することは避けるべきである。結果として、例年、約7割の履修者が途中放棄する。企業の財務分析を行うためには、既存の知識で理解不可能である。事前に配布資料、関連書籍を読了する等自分でやらなければ、新たな知見を得られないと考えてもらいたい。

教科書

プリント資料及び参考文献

プリント資料及び参考文献
なお、講義資料「財務情報分析講義」（2018年度A4で１頁43字×33行,約280頁になる予定）を、講義テーマ別、講義前に期間限定でポータル（PDF形式）に公開する。また、講義進行内容を示す、スライド資料、講義資料をも配布する。しかし、スライド資料は、講義内容の進行を示すだけで、これだけで講義内容を理解することは不可能である。したがって、スライド資料だけを持込、試験で点数を取ることも不可能である。参考文献
山根・太田・村上「第3版ビジネスアカウンティング」中央経済社
杉本・井上・梶浦訳「財務諸表分析と証券評価」白桃書房

授業計画

第1講　財務分析の目的・目標
第2講　財務情報と企業会計
第3講　財務分析のデータⅠ
第4講　財務分析のデータⅡ
第5講　財務分析の枠組み
第6講　財務分析の方法
第7講　収益性分析［費用収益分解］
第8講　流動性分析［経営破綻］
第9講　キャッシュフロー分析
第10講　有利子負債分析
第11講　資本構成、利子率と利益率
第12講　資本構成と資本コスト
第13講　財務情報と企業破綻
第14講　企業評価論（1）－EVA,MVA等
第15講　企業評価論（2）－証券価格、市場評価

予習・復習

当然のことです。

備考

大学の講義は、学問・学科目を「理解する」のが目的・目標する。体系的な理解の後に、理解した知識をもとに、「考える」。これが「知恵」となる。知恵は自分でしか取得できない。与えられるものではない。学後知不足。学生は、「真似る」ことから始める。真似るとは、「書き写す」ことではない。書き写すは、著作権違反という、りっぱな窃盗犯罪です。